

全日本けん玉道選手権大会の変動種目における技の解説と注意事項

～ 2025 年開催 第 47 回大会変動種目 ～

⑪ろうそく金魚すくい

【持ち方】

ろうそくの持ち方

【技の動作】

ろうそくの持ち方でけんを持ち、玉の穴を下にして床に玉を置いて構える。けんを動かして床に置いた玉を中皿ですくい上げて、玉と中皿の接触した状態を維持したまま、中皿に乗せる。

【注意事項】

- ・「構え」の状態の時、けんが床に触れることは可とする。
- ・中皿が玉に触れた後に、玉が床を転がった場合は失敗と見なす。
- ・中皿と玉が接触した後に、玉の穴が床から離れない状態ですくい上げようとした中皿に押されて、玉が床を擦る場合は問題としない。
- ・玉を中皿ですくい上げはじめてから、中皿から玉が離れた場合は失敗と見なす。
- ・金魚すくいを完成させた後、主審の「成功」の合図（挙手）があるまでけん玉と体を静止させておくこと。

補足説明（速報でお知らせ済みの内容）

- ・持ち方は、「ろうそくの持ち方」で統一。ペンギン持ちなどは認めない。
- ・予選では 15 秒ルールは適用しません。
- ・審判から見えなくなったら失敗となります。すなわち、この技は体を 1 回転させるやり方がありますがこれは予選では失敗となりますが、決勝トーナメントでは 3 人の審判が 3 方向から見ているので可能です。

★以下は速報ではアナウンスしていません★

- ・中皿から玉が完全に離れた（浮いた）場合は失敗ですが、フィニッシュの際などに見られる、玉が微妙に浮く場合（カタカタとなる感じ）は、玉が皿の縁の 1 点だけでも触れていれば、部分的に玉が浮くのは OK とします。完全に離れてなければよいです。

⑫円月殺法前ふりすべり止め極意

【持ち方】

片手でけんを持つ。持ち方の詳細は問わない。

持ち替え後の持ち方： 極意技の持ち方。ただしけん先を手のひら側にし、糸の出ている側の皿胴を下にして片手でけんの小皿と大皿を挟む様に持つのが基本だが、糸の出ている側の皿胴が上になってもよい。皿胴より中皿側のけんに触れてはならない。

【技の動作】

けんを持ち、玉を下につり下げて構える。糸が張った状態のまま玉を振り上げてけんを放し、けん玉を空中前方に投げ上げ、糸の張った状態でけん玉と玉を結ぶ糸の中央付近を中心にけん玉と玉が手前に1回転してきたときけんをつかみ、「ふりけん」のように玉を振り出した後、けんを手前に動かして玉を引き玉を手前に1回転させ、玉の穴を利用して玉をすべり止めに乗せて静止させる。玉及び体の動きを少なくとも3秒静止させること。

【注意事項】

- ・持ち替え後は、皿胴より中皿側のけんを持つてはならない。けんを持つ手はけん先に触れても良い。
- ・けんを振り上げる前に、玉を前後に振る、リズムをとるために動作を反復することは可とし、この予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けんが玉を持つ手或いはその他の体・物に触れた場合は失敗とする。
- ・前ふりすべり止め極意完成後、主審の「成功」の合図(発声、挙手)があるまでけん玉と体を静止させておくこと。
- ・技は片手で行うこと（最初にけんを持った手で持ち替え後もけんをつかむこと）。
- ・技を開始した後に、けんを振り上げる前に、振る動作をしている玉を再び手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・技は体の正面又は側面側で行うこと

補足説明（速報でお知らせ済みの内容）

- ・持ち替え後は極意持ち限定（太陽極意は認めない）
- ・持ち替え後のけんの皿胴の糸穴は下向き上向きどちらも可
- ・他の持ち替え技同様、玉がすべりどめに接触するまでは、「持ち替え中」という解釈とする。
- ・持ち替え後に（持ち替え中に）技の自然な流れの中で、糸が手に触れるのはOK。
- ・糸が手やけんに絡まったり、引っかかったり、玉の軌道に影響があると判断された場合は失敗とする。